

【三味線に親しむ】

小宮 正廣

音楽が苦手な私を日本の伝統楽器・三味線に導いてくれたのは、近所の一人暮らしのお婆さん。初めて聴いた三味線は、糸の響きが心地よく、勘所を押さえる指の動きが舞踊のように美しかった覚えがある。

二十六歳の春(昭和六十一年)から、一対一で手ほどきを受け、数え歌や端唄(「春雨」奴さん・・・)、歌舞伎囃子などで基礎を習った。趣味を育む嬉しさから毎日のように通った。長唄「松の緑」は一年半かけてようやく仕上がった曲で、私の宝といっても良い。(ナント！自分の結婚披露宴でも、妻のために演奏した。)

平成九年、「本気でやっつてごらん！」と薦められ、夫婦で長唄を継承する浅草の杵屋三十朗・勝多音先生に入門。芸に厳しく人に優しい両師の姿勢を学んでいる。親切な指導のお蔭で、平成十一年秋には、芸名「杵屋勝十吾」を授かり、更なる精進を誓った。

三味線は、「人と人を結ぶツール」としてインターネットにも優る！うぐいすホールで開かれるサークル「笛の音」発表会や聴き合いコンサートでは、和楽器に親しむ先輩方と舞台をともにする。

郷土芸能「吉田歌舞伎」にも囃子方として参加、芝居のおもしろさに目覚めた。ボランティアで伺った宝山寮の民謡教室では、寮の仲間と「ソーラン節」「八木節」などを合唱(合奏)、心も体もポカポカした。(大場いたる先生の民謡コンサートにみんなで出演したことも思い出・・・)

昨年十一月から、八朔屋台で祭囃子をひけるように、「三味線教室」が始まった。毎回、小学生から成人まで約二十名が参加、祭りに賭ける意気込みは想像以上。私も些少ながら指導をサポートし、「伝える」難しさと「伝わる」喜びを味わっている。将来、身近な三味線愛好者で「越後獅子」や「勸進帳」などの大曲に挑み、日本舞踊や地芝居の舞台を盛り上げられたら素晴らしい。



生涯学習通信 生涯学習推進会議

のびのび いきいき 生涯学習

『わたしの生涯学習』



【無理のない有酸素運動「太極拳」】

橋村 みどり

平成十年、私が都留に越してきて八年目ごろ、車ばかりの生活や仕事、更年期といういろいろなことが重なり、体調が優れず困っていました。そんな時、女性センターで「入門太極拳セミナー」しなやかな心と体をめざして」の募集がありました。以前から興味があったので、時間をやりくりして何とか参加してみたところ、体が軽くなった感じでした。

その時のメンバ―が引き続き教室を構成し、「富士太極拳」として発足させ、熱心な長田先生の指導のもと、月四回ほどのペースで活動が続いています。その後、富士吉田市、大月市、河口湖町、山中湖村にも教室ができました。

最近、太極拳が話題になり、テレビでも紹介されています。NHKでも、アメリカで老化予防に、無理のない有酸素運動として「TAICHI」が取り入れられていることを報じていました。

太極拳は、中国古来の武術が基本になっっている、ゆったりとした動きの中に様々な技の意味や目的が含まれていて、それなりに納得できるのも楽しいものです。(空手の源流とされる、力強いスピード性のある長拳、南拳とは違います。)さらに、そのゆったりとした動きは、精神を安定させ、硬い筋肉や関節を和らげゆるめ、動作に意識を集中させるため、脳が活性化されるなどの効果があるとされています。

私たちは、四十代から七十代の女性二十五名、男性三名、(そのうちご夫婦が二組)で教室を構成し、山梨県太極拳連盟に所属して、入門、初級、二十四式太極拳の習得を目標にして、それぞれの体力年齢に応じて楽しく汗を流しています。

平成十二年、「スポレク祭入門の部一位」「ねんりんびつく入門の部三位」。平成十四年、「スポレク祭初級の部一位」「ねんりんびつく初級の部三位」と練習の成果も、少しずつ表れて嬉しい限りです。これからも「しなやかな心と体をめざして」無理なく、細く長く、続けていきたいと思っています。

